

北見工業大学学報

第 302 号 (2020 年 11 月号)

目 次

入 学 式	令和 2 年度秋季大学院入学式を挙行……………	2
入 試	令和 3 年度総合型選抜の実施……………	3
	2021 年度モンゴル科学技術大学ツイニング・プログラム入試の実施……………	3
研 究 助 成	令和 2 年度外部資金の受入状況……………	4
人 事	人事異動……………	5
受 賞	技術部の松田弘喜再雇用職員が日本分析化学会 2020 年度有功賞を受賞……………	6
諸 報	機械電気系武山眞弓教授らの招待論文が月間ダウンロード数 1 位を獲得……………	7
	イノベーション・ジャパン 2020～大学見本市 Online に出展……………	8
	学部新入生対面ガイダンスを実施……………	9
	オープンアクセスウィーク 2020 ポスター展示を実施……………	10
	NTT ドコモの 5G を活用した防災・一次産業における実証実験の 記者説明会を実施……………	11
	アルゴグラフィックス北見カーリングホール オープン記念フォーラムを開催……………	12
	カーリング研究に関する包括連携協定締結に係る記者会見を実施……………	13
	オンライン父母懇談会を開催……………	14
	第 34 回北海道技術・ビジネス交流会(ビジネス EXPO)に出展……………	15
	アグリビジネス創出フェア 2020 に出展……………	16
	社会連携推進センター産学官連携推進員・協力員合同会議を開催……………	17
	永年勤務者表彰式を挙行……………	18
	北海道中小企業家同友会オホーツク支部「オホーツク☆未来塾」に協力……………	19
日 誌	10 月・11 月……………	20

= 入学式 =

令和2年度秋季大学院入学式を挙

(総務課)

10月1日(木)、本学第1・2会議室で令和2年度秋季大学院入学式を挙

行しました。鈴木聡一郎学長から、留学生を含む10人の入学が許可された後、「専門分野だけではなく、様々な学問に触れていただき、

皆さんの研究活動に活かすことで、未来の社会に貢献できる人材となっ

ていただき」と激励の言葉がありました。入学者数は次のとおりです。

大学院工学研究科博士前期課程

専攻名	入学者数(人)
マテリアル工学専攻	1

大学院工学研究科博士後期課程

専攻名	入学者数(人)
生産基盤工学専攻	4
寒冷地・環境・エネルギー工学専攻	5



入学式に臨む新入生



お祝いの言葉を述べる鈴木学長

= 入試 =

令和3年度総合型選抜の実施

(入試課)

10月30日(金)、令和3年度総合型選抜を実施し、11月11日(水)に合格発表を行いました。各卒の合格者数等については下表のとおりです。

卒 名	募集人員	志願者	受験者	合格者
コース確定卒	14 (うち2人は地域マネジメント工学コース)	68	68	14
コース確定卒 (地域マネジメント工学コース)		1	1	1
第一次産業振興卒	3	2	2	2
冬季スポーツ卒	4	8	8	7
合 計	21	79	79	24

2021年度モンゴル科学技術大学ツイニング・プログラム入試の実施

(入試課)

2021年度モンゴル科学技術大学ツイニング・プログラム入試を実施し、11月11日(水)に合格発表を行いました。両学科の合格者数等については下表のとおりです。

学 科	募集人員	志願者	合格者
地球環境工学科	若干人	6	6
地域未来デザイン工学科		17	7
合 計		23	13

= 研究助成 =

令和2年度外部資金の受入状況

(研究協力課)

	令和2年11月30日 までの合計		前号までの合計		令和2年度累計	
	件数	金額 (千円)	件数	金額 (千円)	件数	金額 (千円)
共同研究	11	12,130	101	86,796	112	98,926
受託研究	3	56,441	10	40,164	13	96,605
奨学寄附金	11	4,979	47	38,891	58	43,870

= 人事 =

人 事 異 動

(総務課)

○大学発令

発令年月日	現 職 名	氏 名	新 職 名 (発令事項)
2.11.1	(新規採用)	(しらい ひでかず) 白井 秀和	工学部社会環境系准教授
2.11.1	(新規採用)	(たけこし たつや) 竹腰 達哉	工学部情報通信系助教

= 受賞 =

技術部の松田弘喜再雇用職員が日本分析化学会 2020 年度 有功賞を受賞

(技術部)

このたび、技術部の松田弘喜再雇用職員が日本分析化学会 2020 年度有功賞を受賞しました。この賞は、多年にわたり分析の実務に従事し、又は分析に必要な機械、器具並びに試薬などの製造等の実務に従事して功労のあった者に贈呈されるものです。

松田再雇用職員は 37 年の長きにわたり、核磁気共鳴 (NMR) 装置の維持・管理及び同装置による分析実務に携わってきました。定期的なメンテナンスはもちろんのこと、装置の修理・調整等も行っており、特に分光計等に関しては自ら修理を行い、維持経費の削減にも貢献してきました。さらに、

豊富な分析実務経験に裏付けされる NMR 測定技術及びスペクトル解析技術は、学内だけでなく外部の研究者からも高く評価されています。

今回の受賞は、松田再雇用職員の長年における装置の維持・管理、及びその高いスキルが日本分析化学会において評価されたものです。

授賞式が行われる予定であった日本分析化学会第 69 年会が新型コロナウイルス感染症を考慮してオンライン開催となったため、賞記及びメダルは郵送にて届けられました。



メダルと賞記

= 諸報 =

機械電気系武山眞弓教授らの招待論文が月間ダウンロード数 1位を獲得

(オホーツク農林水産工学連携研究推進センター)

本学、機械電気系 武山眞弓教授及び佐藤勝准教授、並びに情報通信系 安井崇准教授、さらに電気通信大学 横川慎二教授による招待論文「エゾシカ肉のおいしさの計測」が電子情報通信学会 2020年9月号に掲載され月間ダウンロード数1位(9月期)となりました。

本学オホーツク農林水産工学連携研究推進センター(通称:CAFFÈ)に所属する武山教授らは、エゾシカの農林業被害の状況を改善するため、その駆除とジビエ利活用の可能性等について、かねてより研究を進めていました。また、その成果を電気学会、電子情報通信学会などで精力的に発表しています。

この他にも、日本食品科学工学会、電子情報通信学会、マイクロウェブワークシ

ョップなどで、電気を使ったおいしさの新たな計測方法として、リアルタイムで結果が得られる生体電気インピーダンス法によるおいしさの可視化について講演するなど、注目を集めています。

今回は、電子情報通信学会からの招待論文という形で8月下旬に公開されると、すぐに8月のダウンロード数8位となり、9月には見事月間ダウンロード数1位、10月でも3位と高いダウンロード数を保持しました。

この研究の一連の成果としては、本学生協食堂と協力したレシピの公開やエゾシカカレーなどのメニュー展開も行っており、そのおいしさの発信力でも注目を集めています。

論文誌 月間トップ10 (2020年9月)
和文論文誌 C

ダウンロード数: 192
エゾシカ肉のおいしさのリアルタイム計測
武山 眞弓, 佐藤 勝, 安井 崇, 横川 慎二
誌名: 電子情報通信学会論文誌 C Vol. J103-C No.9 pp.387-394
発行日: 2020/09/01
[詳細はこちら](#)

ダウンロード数: 117
絶対帯域幅一定の周波数選択可変特性及び放射特性を備えたチューナブルフィルタリングアンテナ
大平 尚規, 相馬 剛謙, 馬 哲朗
誌名: 電子情報通信学会論文誌 C Vol. J103-C No.9 pp.366-379
発行日: 2020/09/01
[詳細はこちら](#)

招待論文がダウンロード数1位を獲得

イノベーション・ジャパン 2020～大学見本市 Online に出展

(社会連携推進センター)

9月28日(月)～11月30日(月)、イノベーション・ジャパン 2020～大学見本市 Online が開催されました。

本展示会は、国立研究開発法人科学技術振興機構(JST)主催で、大学の技術シーズと産業界の技術ニーズを結びつけ、我が国の産学連携を強力に推進するために毎年開催されている国内最大級の産学マッチングイベントです。

本年度は新型コロナウイルス感染症の状況を考慮し、特設 Web サイトにてオンラインでの開催となり、各分野合わせて 405 の

技術シーズの出展がありました。

イノベーション・ジャパンは本学においても研究力向上につながる展示会として重視しており、今回はライフサイエンス分野において、応用化学系の小針良仁助教が取り組む「地域の生物資源を活用した地域活性化」の紹介を行いました。

イノベーション・ジャパンへの出展の実現には、厳しい審査をクリアする必要がありますが、本学のプレゼンス向上に大きく寄与できる場でもあることから、今後も出展に向け挑戦していきます。



小針助教による特設 Web サイト出展の様子

学部新生対面ガイダンスを実施

(学務課)

9月29日(火)、30日(水)の2日間、学部新生の対面ガイダンスを本学講堂にて実施しました。4月にはオンラインでのガイダンスを行っていましたが、後期から一部対面授業を開始することに伴い、本ガイダンスを行うこととしました。各学科を2グループに分け、検温や手指・座席の消毒、座席の間隔を空ける等の対策を行った上で、例年より短時間での実施となりました。

ガイダンスでは、鈴木聡一郎学長からコロナ禍で通常とは異なる大学生活を送っている1年生に向けて励ましの言葉が送られ

た後、入学から卒業までの流れや履修に関する注意事項、学生生活に関する説明が学務課長から行われました。最後に、升井洋志情報処理センター長から、大学で使用するシステムについての説明や情報端末室利用時の注意事項等の説明が行われました。新生たちは真剣に話を聞き、時にはメモを取る様子が伺えました。

初めは緊張した様子で参加した新生も、終了する頃には周囲の学生と会話をする姿が見られ、約30分と短い時間でしたが、学生同士が交流できる貴重な機会となりました。



鈴木学長による挨拶



ガイダンスの様子

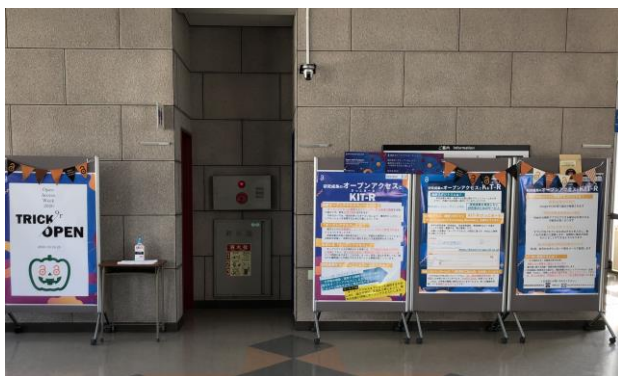
オープンアクセスウィーク 2020 ポスター展示を実施

(情報図書課)

オープンアクセスとは、学術研究成果を誰でも無料でインターネットを通じて自由に利用できるようにすることで、オープンアクセスウィークは、2008年にアメリカで立ち上がって以後毎年10月に開催されているオープンアクセスの意義を周知するイベントです。2020年のテーマは「Open with Purpose: Taking Action to Build Structural Equity and Inclusion」目的を持ってオープン化しよう：構造的な公正性とインクルージョンを実現するために行動しよう」でした。

本学でもこのオープンアクセスウィークに合わせて、10月16日(金)～26日(月)にポスター展示を行いました。展示ではオープンアクセスの意義や本学の機関リポジトリKIT-R(きつとあーる)をPRし、チラシも配布しました。

学術雑誌の価格が高騰し、学術論文にアクセスできる機会が減ってしまうことが懸念される中、オープンアクセスは研究成果の共有と再利用を進める手段として有効です。ぜひ研究者の皆さまはKIT-Rでの学術成果の公開にご協力をお願いいたします。



ポスター展示の様子 (4号館講義室前)



配布したチラシ

NTT ドコモの 5G を活用した防災・一次産業における 実証実験の記者説明会を実施

(研究協力課)

10月22日(木)、5G(第5世代移動通信システム)を活用した防災・一次産業における実証実験の記者説明会を実施しました。

本学と株式会社NTTドコモ北海道支社は、昨年12月25日(水)に「5Gを活用した防災・一次産業における研究力強化に関する連携協定」を締結し、本学の地域と歩む防災研究センターとオホーツク農林水産工学連携研究推進センターを中心に、「高速・大容量・低遅延・多数接続」という5Gの特性を活かした研究に取り組んできました。

今回の説明会は、これまでの取り組みの

進捗についてお披露目し、取り組みへの理解をさらに深めていただくことを目的として、メディア及び関係者の皆様を対象に実証実験公開の場を設けたものです。

本学からは、5Gを活用したスマート農業分野におけるトラクターの自動走行、ドローンによる河川流速解析やインフラの点検技術に関する実証実験の説明を行ったところ、複数のメディアから多くの質問が寄せられ、5Gを活用した実験への関心の強さや今後の展開に期待が寄せられていることが窺えました。



河川流速解析デモンストレーションの様子



トラクター自動走行
デモンストレーションの様子



インフラ点検について説明をする宮森部門長



橋梁点検用ドローン マルコ
(川田テクノロジーズ株式会社様ご提供)

アルゴグラフィックス北見カーリングホール オープン記念フォーラムを開催

(総務課)

10月24日(土)、カーリングによる地域振興を考えるフォーラム「北見から世界へカーリングが拓く地域の未来」が、本学講堂において開催されました。

このフォーラムは、10月31日(土)に新しくオープンするアルゴグラフィックス北見カーリングホールの設置を記念して開催されたものです。コロナ禍での開催にあたり、人数制限や「北海道スタイル」を実践した中で、一般市民約100人が参加しました。

第一部では、本学 鈴木聡一郎学長による「冬季スポーツ科学と地方創生～北見ダイ

バーシティ空間の創出～」をテーマとした基調講演があり、第二部では女子カーリングチームを運営するロコ・ソラーレ代表理事の本橋麻里さんや辻直孝北見市長など6人によるパネルディスカッションが行われました。

新カーリングホールは、最先端スポーツ科学研究を実用化し、スポーツ科学に基づくトレーニング法や戦術開発への総合的な支援を提供できる施設として整備されており、今後の北海道、日本のカーリングの普及に大きく貢献することが期待されています。



基調講演を行う鈴木学長



第二部 パネルディスカッションの様子



新カーリングホール研究施設を紹介する
榊井文人冬季スポーツ科学研究推進センター長



フォーラム会場の様子

カーリング研究に関する包括連携協定締結に係る記者会見を実施

(研究協力課)

11月2日(月)、北見工業大学冬季スポーツ科学研究推進センター(センター長: 榎井文人教授)、公立ほこだて未来大学、電気通信大学人工知能先端研究センター、株式会社アイエンター、株式会社AIS 北海道の五者は、カーリング研究に関する包括連携協定の締結を発表する記者会見を行いました。

今回の協定締結は、10月31日(土)の「アルゴグラフィックス北見カーリングホール」開設を機に、榎井センター長がこれまで個別に共同研究を行ってきた2大学2

企業に対し提案したことで実現しました。

会見では、協定締結の経緯について榎井センター長から説明の後、株式会社アルゴグラフィックスの藤澤義麿代表取締役会長から、新カーリングホールについてお話いただくなど、各機関代表からコメントを頂戴しました。

2025年までを有効期間とする本協定は、五者相互の人的・知的・物的資源の活用と交流を図ることにより、カーリング競技の支援技術の発展とそれらに関わる優秀な人材育成及び地域社会への貢献を目指します。



(左から) 榎井センター長、竹川佳成准教授(公立ほこだて未来大学)、南泰浩教授(電気通信大学人工知能先端研究センター)、入江恭広代表取締役(株式会社アイエンター)、高嶋英巖取締役(株式会社AIS 北海道)



東京からオンライン参加となった(株)アルゴグラフィックス藤澤代表取締役会長(兼(株)AIS 北海道代表取締役社長)



榎井センター長による研究内容の説明



研究実施場所となる新カーリングホール

オンライン父母懇談会を開催

(学務課)

11月3日(火・祝)、オンライン父母懇談会を開催しました。例年、秋には札幌・東京会場で開催していた父母懇談会ですが、今年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、Web会議ツール(Webex)を用いての実施となりました。春季(北見会場)は新型コロナウイルス感染症拡大により中止となっていたため、今年度初の開催となりました。

当日は、事前申し込みのあった保護者(114組)の大半の面談が実施され、修学状況、就職等保護者からの質問に、個別担任が対応しました。コロナ禍でほとんどの授業がオンラインとなっていることから、例年以上に修学状況や学生の心身に関する心配の声が多く聞かれ、大学の状況にも関心が寄せられました。一部音声や画像の不具合もありましたが、大きなトラブルもな

く無事面談が終了しました。

参加した保護者からは「これまで父母懇談会会場(北見・札幌・東京)が遠く、参加が難しかったが、オンラインだとどこにいても参加できるので良かった」、「個別担任の先生と直接話ができ、子供の状況をよく知ることができた」、「オンラインもいいが、コロナが落ち着いたら対面で話を聞きたい」などの声が寄せられました。

また、教員からも「思ったよりスムーズに面談が実施できたので、出張する必要がなく時間・経費ともに削減できるオンラインでの実施は良かった」、「個別担任が話した方が保護者に学生の状況が伝わっていいと思った」、「オンラインが苦手な保護者もいるので、希望にあわせて対面とオンラインを選択できるようにするといいいのでは」といった感想が寄せられました。

第 34 回北海道技術・ビジネス交流会（ビジネス EXPO）に出展

（社会連携推進センター）

11月5日（木）・6日（金）の2日間、アクセスサッポロを会場に第34回北海道技術・ビジネス交流会（ビジネス EXPO）が開催されました。

本イベントは、北海道内の産学官金の関係機関による、北海道最大級のビジネスイベントです。今年は新型コロナウイルス感染症対策を講じた万全の体制のもと、215機関が出展しました。

本学は、令和4年4月に帯広畜産大学、小樽商科大学との経営統合に向け準備を進めていることから、今回は「三大学共同の産学官連携による分野融合を目指す取り組み」をメインテーマに掲げ、帯広畜産大学・小樽商科大学・北見工業大学の三大学共同で出展しました。

本学からは「地域の特色を色濃く反映した4つの研究推進センター」と題し、環境・エネルギー研究推進センター、冬季スポーツ科学研究推進センター、オホーツク農林水産工学連携研究推進センター、地域と歩む防災研究センターについてのパネル展示及び来場者への説明を行いました。

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため多くのイベントが中止または延期となる中、「新北海道スタイル」に沿って開催された本交流会には、来場者数・Web視聴者数のべ20,655人が訪れました。

例年は本学出身の卒業生が数多く訪れ、各種情報交換の場にもなっていることから、来年は通常通り開催できることを心より祈念しています。



三大学共同出展ブース



説明を行う有田敏彦教授（写真中央）

アグリビジネス創出フェア 2020 に出展

(社会連携推進センター)

11月11日(水)～13日(金)の3日間、農林水産省が主催するアグリビジネス創出フェア2020が開催されました。

本イベントは、全国の産学の機関が有する、農林水産・食品分野などの最新の研究成果を展示やプレゼンテーションで紹介し、研究機関同士や研究機関と事業者との連携を促す場として開催する技術交流展示会です。

今年度は新型コロナウイルス感染症を考慮してオンラインによる開催となり、全国から総勢119団体が出展しました。

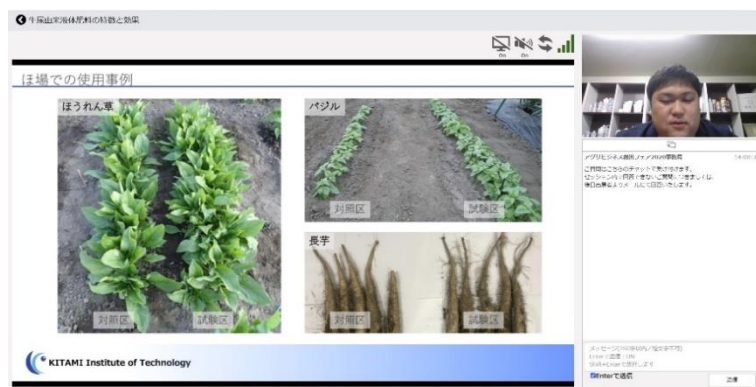
本学からは、オホーツク農林水産工学連携研究推進センターにおいて小西正朗教授が代表を務める「北見工業大学 環境大善共

同研究講座」が出展し、「家畜排泄由来液体肥料の効果と普及」をテーマに牛尿発酵液が光合成生物の生長・増殖へ与える効果などについて紹介しました。12日(木)には「牛尿由来液体肥料の特徴と効果」と題し、環境大善株式会社 土、水、空気研究所 加藤勇太研究員によるプレゼンテーションがライブ配信されました。

本イベントへの参加は、工学による農林水産業の支援・発展への貢献に向けた活動を知っていただく貴重な場となっています。本学は地域に生きる大学として、地域の核である第一次産業を支える研究について今後も広く紹介して行きたいと考えています。



オンライン開催特設サイト出展の様子



プレゼンテーションを行う環境大善(株) 加藤研究員

社会連携推進センター産学官連携推進員・協力員合同会議を開催

(社会連携推進センター)

11月12日(木)、例年本学で開催している社会連携推進センター産学官連携推進員・協力員合同会議について、今年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、メール及び資料郵送による形態で開催しました。

本会議は、オホーツク地域の経済発展及び地域活性化を目指し、周辺自治体・大学・公設試験場・包括連携協定締結機関等の関連部署担当者に「産学官連携推進員・協力員」として委嘱を行い、地域における産学官連携に関する協議・情報交換等を行っているものです。

本学における研究紹介としてオホーツク農林水産工学連携研究推進センターに所属する武山眞弓教授から「エゾシカ肉のおいしさのリアルタイム計測」及び「遠軽町白滝ジオパークにおける黒曜石の分析にかか

る共同研究について」、鞆師守特任教授からは「北見工業大学卒業生の地域への就職」について、それぞれ書面による紹介を行いました。

なお、本会議構成員には『北見工業大学から情報提供を希望すること』や『当会議にて周知を希望すること』などについて事前に照会を行い、それぞれの自治体・機関へ回答を行いました。お寄せいただいた内容は「畑作物の鳥獣食害に関するご相談」や「学生の就職に関する事項」など幅広く、本学に期待される役割、使命を改めて認識する機会となりました。

次年度はいわゆるコロナ禍を克服し、例年どおり産学官連携推進員・協力員の皆様と直接意見交換ができるようになることを願っております。



昨年開催された産学官連携推進員・協力員合同会議の様子

永年勤務者表彰式を挙

(総務課)

11月24日(火)、令和2年度国立大学法人北見工業大学永年勤務者表彰式を第2会議室において挙

行しました。鈴木聡一郎学長から被表彰者に対し、永

年にわたる本学への貢献に対する感謝とお祝いの言葉が贈られました。

被表彰者は、次のとおりです。

北見工業大学永年勤務者表彰被表彰者 (50音順)

30年勤務者

氏名	所属
宇都 正幸	応用化学系
鈴木 範男	基礎教育系
渡部 孝弘	学務課
川島 恵也	学務課

20年勤務者

氏名	所属
吉田 孝	応用化学系
石澤 真也	技術部
宿院 信博	技術部



永年勤務者表彰式被表彰者

北海道中小企業家同友会オホーツク支部 「オホーツク☆未来塾」に協力

(社会連携推進センター)

11月25日(水)、北見市民会館において、北海道中小企業家同友会オホーツク支部主催による「オホーツク☆未来塾」が開催されました。

新型コロナウイルス感染症対策を講じて開催された本会合に協力する形で、本学からは、社会連携推進センター長・有田敏彦教授が『北見工業大学発！ベンチャー企業の展望』と題して講演を行いました。ベンチャーや学生による起業に関することのみならず、本学における各研究推進センターの共同研究、帯広畜産大学・小樽商科大学

との経営統合による今後の展望や、学生の就職に関する近況など幅広く、参加した地域の企業経営者へ情報発信を行いました。

また、講演後には参加者たちが少人数の班を作って『ベンチャー企業への期待と中小企業の活用』というテーマでグループワークを行い、最後にそれぞれの班から発表が行われました。いずれの発表でも本学や学生への言及があり、北見市の経済界から強く期待をいただいていることを実感する会となりました。



講演を行う有田センター長（左奥）と参加者

= 日誌 =

10 月

- 1日 秋季大学院入学式、総合型選拔出願受付
(～8日)
- 6日 ホームページ専門委員会
- 7日 地域連携・国際交流委員会(書面審議)、
インターンシップ事後研修会
- 9日 教務委員会
- 13日 総合型選抜等実施委員会
- 14日 教育研究評議会、役員会、編入学試験(第
2次募集)出願受付(～20日)
- 15日 発明審査委員会、アドミッションセンター
運営会議
- 16日 オープンアクセスウィーク2020ポスター展
示(～26日)
- 19日 学生委員会
- 20日 進路選択ガイダンス
- 23日 総合型選抜等実施委員会
- 24日 アルゴグラフィックス北見カーリングホー
ルオープン記念フォーラム
- 27日 進路選択ガイダンス
- 30日 総合型選抜

11 月

- 3日 オンライン父母懇談会
- 6日 地域連携・国際交流委員会(書面審議)
- 9日 官公庁合同セミナー(～27日)
- 10日 入学者選抜委員会
- 11日 教務委員会、総合型選抜・モンゴル科学技
術大学ツイニング・プログラム入試合格発
表、学校推薦型選抜・帰国子女特別入試出
願受付(～18日)
- 12日 発明審査委員会、編入学試験(第2次募
集)
- 14日 北海道合同企業セミナー(～15日)
- 16日 学術情報機構統括会議
- 17日 進路選択ガイダンス
- 19日 地域連携・国際交流委員会(書面審議)
- 20日 学生委員会、総合型選抜等実施委員会
- 24日 教育研究評議会(書面審議)、進路選択ガ
イダンス、合同企業研究会(～12月27日)
- 25日 役員会
- 27日 総合型選抜等実施委員会